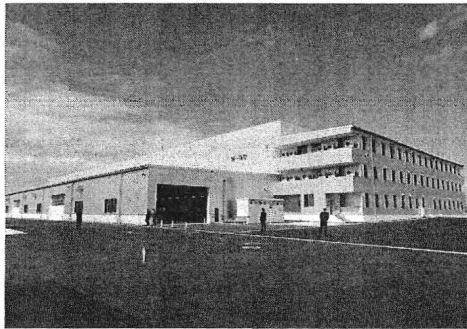


2021年10月4日掲載 輸送新聞

市内3拠点を集約する

新・山形支店が竣工

第一貨物 効率と品質向上



新・山形支店の外観、1階は完全
インドア構造となっている

第一貨物（米田総一郎社長）は9月28日、同社「東京プロジェクト」の一環となる「新・山形支店」の竣工式を山形市内の現地で開催した。

北中央自動車道山形中津川ICから約10分、中央インターチェンジ至近の山形市黄金45の1に所在。敷地面積は3万9659平方メートル。建物は倉庫棟2階建て・管理棟3階建て、延べ床面積2万459平方

メートル。1階は荷捌場で、冬季の積雪等に備えた完全インドア構造。2階は約8600平方メートルの一時保管スペースで、25度の定温スペースを約4100平方メートル、20度の定温スペースを約4500平方メートル、それぞれ確保。戦力は特積み事業で人員120人・車両116台、区域事業で人員47人・車両49台。同社では埼玉整備工場に続き女性社員用のシャワー室を設ける等、女性従業員の労働環境改善にも配慮した。

山形市内にあった現・山形支店、区域センター、山形流通ターミナルを統合し、集荷機能と配送機能等を集約することにより、業務の効率化と品質の一層の向上を図る。発着合計の取扱数量は1日約700ト。旧山形流通ターミナルは、山形流通倉庫に改築される。現地で行われた竣工式は、アクリル板の設置や式典後の弁当配布など新型コロナウイルス対策を施して開催。

米田社長は、新・山形支店、新・東京支店（来年1月竣工予定）などからなる東京プロジェクトの概要を紹介した上で「コロナ禍で荷物量が減少する厳しい状況下にあるが、何としてもプロジェクトを成功に導き、ますます発展・飛躍したい」と強調。

来賓あいさつで、六の鈴木社長は、同社の既存物流拠点である蔵王の森工場が手狭となったことから、新・山形支店の施設内に機能の一部を移転、でん六の山形物流センターとして担当者常駐させると説明した上で「第一貨物との相互信頼の経営を一層押し進め、共に尊重し共に発展する『共尊共生』を図っていきたい」と祝辞を送った。